

磐女神社とつなぎ松

《矢田野》

永祿二年、矢田野城主、矢田野阿波守為房が勤請したといわれる。始め磐女大明神と称した。祭神は磐媛命或は磐筒女神といわれる。御神体は、坂上田村磨が矢坦の地で、天に祈つて射た鉄製の鎌といわれている。

境内は風光明媚であるが、とくに神橋の下は河床平滑の岩磐で、岩瀬川の清流が岩を洗っている。境内には、また珍らしいつなぎ松があった。幹の上部が二又に分かれ、その上一メートルほどの所より枝が出て、別の幹に食い込みつながつてしまった。村人が「つなぎ松」、縁結びの松として讃え、知られた。

古くよりつなぎ松が発見されたと朝廷に報告されている。連理の松に関しては『続日本記』『二代実録』『丈徳実録』などに記載されている。惜しいことには、昭和初期の台風で、片方が枯れ、近年枯れて伐採されてしまった。



磐女神社

(「樺衝村誌考」より)